

湛液トマトプラント(たて)は確かに力があるね!

たよりNo84(2004.11月号)で工事段階での紹介をしておりました白子トマト団地(千葉県)も竣工後1年を経過しましたので運営状況など続報です。

この事業はJA長生リース事業として下表のように6軒合計で4,000坪規模で実施され、現在では共選・共同出荷の農事組合法人トマト倶楽部として運営

2号棟	斉藤農園	556坪
3号棟	中古農園	618坪
4号棟	長島農園	803坪
5号棟	渡辺農園	491坪
6号棟	田辺農園	491坪
7号棟	半沢農園	802坪

されています。

今回のプラントは垂れ下げ仕立ての「とり」と違いベッド床置きで上部に誘引、湛液式ベッドを使用した方式「たて」を選択されました。その違い・効用など田辺一也代表理事に伺いました。

「安定感があって作り易い」「長段作りしても樹勢が衰えない、プラントに力があるね」との評価。垂れ下げの「とり」は作業は半分程度と楽だが5段程度で植え替えなければならない。この苗を準備するタイミング、苗場確保などが大変で、わずらわしい。その点この「たて」は長段作りにも向いており7月播種、6月迄収穫の年1作にしようかな?と検討中。また養液量の多さから安定感が出るが、逆に「樹がしめられない」感じ

もするとのこと。でも気に入ってるよ...とのことでした。また制御系にタッチパネル方式を新たに採用したのも特徴ですが、扱い易いパソコンとのリンクできるのも拡張性があるといいのではと田辺さんの評価はマルでした。

水耕については、手段と結果が明確になるので「それがいい」。したがって原因究明を絶対途中で止めないことを心がけているとのこと。この間も「植え替えをするべきか、どうか」で悩んだことがあった。結果は割安肥料の成分の問題ではあったのだが、原因がわからない段階で植え替え対処しても生産は確保されるが、技術向上には繋がらない。勇気はいるし大変だが...。いいお話でした。(担当 神谷高裕)



田辺代表理事

